

表 3.5.3 M₂分潮振幅減少に関する各要因の寄与率に関する見解

見解	見解 1	見解 2	見解 3	見解 4
有明海内の海水面積の減少	50%	40～50%	潮受堤防の締切 10～20%	諫早堤防：24% 熊本新港：2%
平均水位の上昇	10%	極めて小さい	-	0%
外洋潮汐振幅の減少	40%	50～60%	-	76%

有明海の潮位の上昇

平均潮位は有明海及び外洋の長崎や枕崎で近年上昇している。

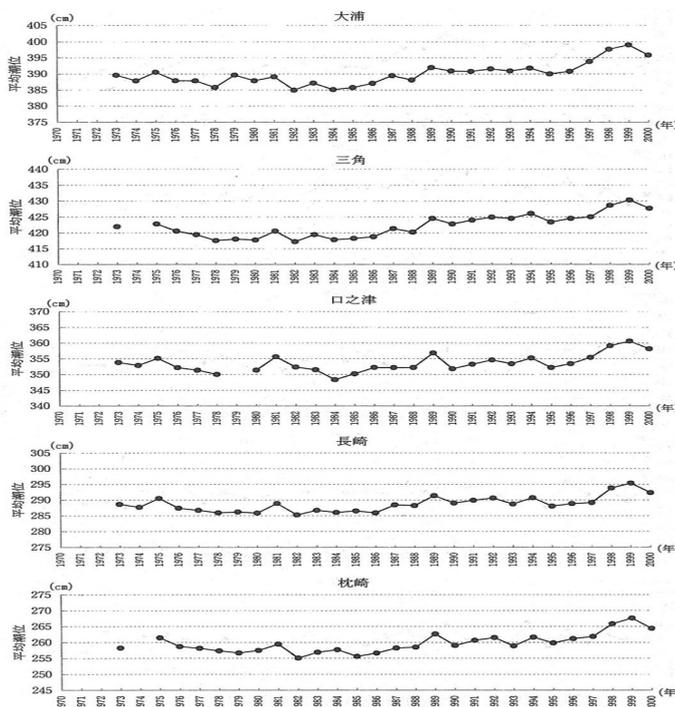


図 3.5.7
年間の平均潮位の水位

(出典：気象庁、潮汐概況・潮汐観測原簿・気象庁データより)

(2) 八代海について

潮位の変動

八代海の潮位観測点は数少ないが、1980年以降、有明海と同様に平均潮位の上昇と潮位差の減少傾向が観測されている(図 3.5.8)。八代海の潮汐による潮位変動特性(湾振動)にかかる詳細な知見は少ないが、外洋からの入射波周期に対する八代海の各点での振動応答を2次元の数値計算より算定した結果によると、八代海の湾振動周期は約3時間であり、八代海の長軸方向の固有振動周期である。また、9時間以上の振動応答は有明海の固有周期による影響であり、八代海と有明海の潮汐流動の調査に際しては相互の影響を考慮する必要がある。(図 3.5.9)

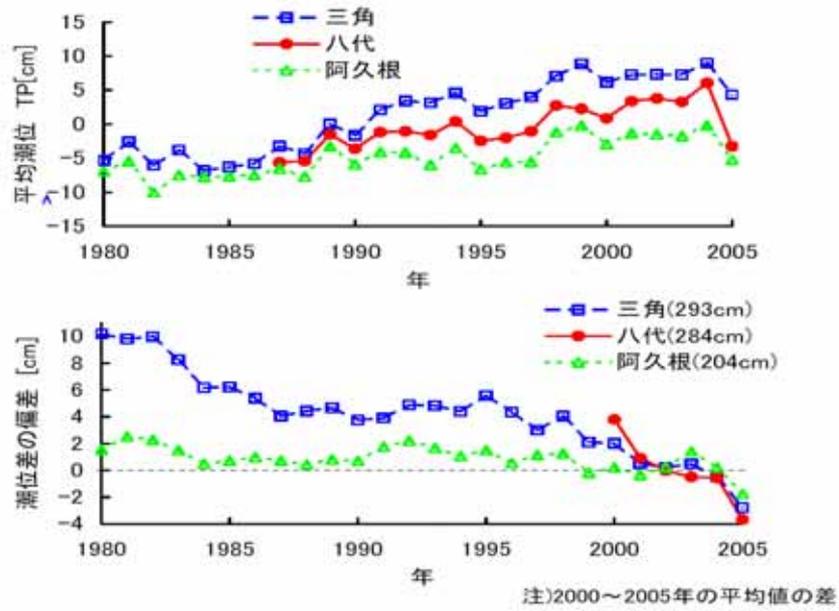


図 3.5.8 八代海における平均潮位及び潮位差の年変動

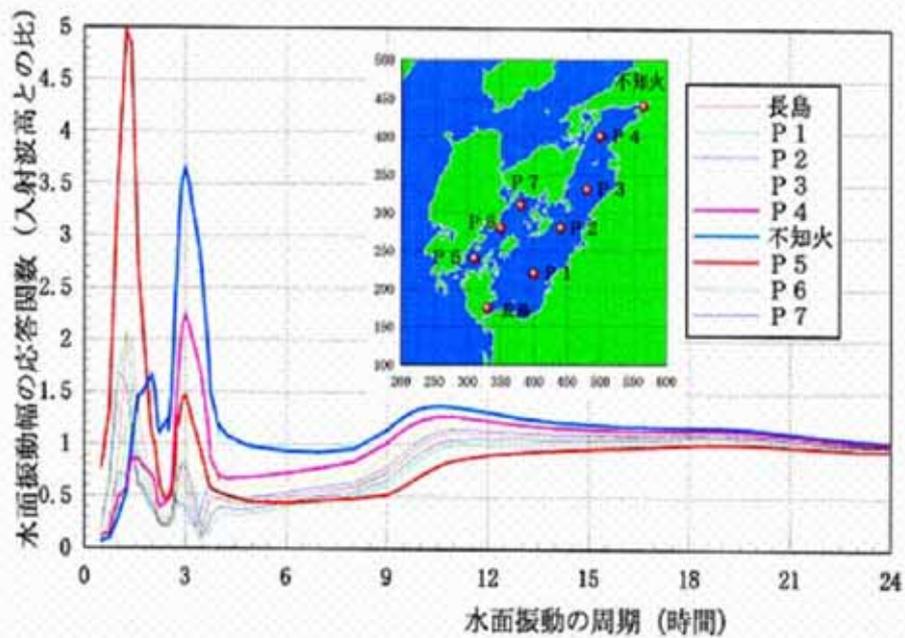


図 3.8.9 八代海における水面振動幅の応答関数